琵琶湖森林づくり基本計画 進行管理および基本指標等達成度に対する点検・評価シート

保安林面積の割合(累計)(%) 保安施設整備割合(累計)(%) 態整備面積の割合 保安施設整備面積(累計) (保安施設整備面積(累計)	33 達成率 49 達成率 31,795ha 達成率 20 達成率	58 57% 56 62%	36 60% 37,774ha 58% 64 71%	36 60% 37,945ha 60% 64 71%	61%	60% 38,339ha 64%	荒廃林地の復旧・予防等により県土の保全と保安林機能の増進を図る a ため治山事業による保安施設整備を実施した。厳しい予算事情の中で新 たな災害発生箇所の復旧を優先するなど効果的に実施した。 - 211ha(44箇所) 日標準度におけ計画的な治山事業を行うよう。予算配分について政府	(長期目標) 38 65 42,100ha	С	★★★	評価理由 3項目を均等に 評価し★3つとした。	意見なし	対応方針 ・近年、気気をいる。本を対しての多によるによるによるによるといる。本を対しての間では、まり図能がより図能がより図能がより図能がより図能がより図能がよりであるととした。また、そのでは、そのでを備やない。本をがあるとを値がある。のをは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そので
保安施設整備割合(累計)(%) 設整備面積の割合 保安施設整備面積(累計) でる人工林に対する整備割合(%) 3以上の森林の割合 の森林で高木の後継樹が消失、傾斜地で の土壌浸食が発生する衰退度	達成率 49 達成率 31,795ha 達成率 64 達成率 30団体	58 57% 56 62%	37,774ha 58% 64 71%	60% 37,945ha 60%	38,128ha 61%	60% 38,339ha 64%	6 に指定し、累計は66,599haで民有林の約36%である。 - 今後とも目標達成に向け、造林公社の返地や区有林などまとまった森林の所有者に働きかけていきたい。 a 荒廃林地の復旧・予防等により県土の保全と保安林機能の増進を図るため治山事業による保安施設整備を実施した。厳しい予算事情の中で新たな災害発生箇所の復旧を優先するなど効果的に実施した。 211ha(44箇所) 目標達成にむけ計画的な治山事業を行うよう、予算配分について政府要望を引き続き行っていきたい。 台風による風倒木被害の対応に労力を取られたことが、面積が伸びなかった大きな要因の一つである。また、事業実施に当たり、境界確定等に	65 42,100 ha	С	***		意見なし	などの気象災害が頻り していることから、本整の間伐等の森木整の推進により多るとも に、保安を関係を揮本機能をしませるともしません。 は、せるため森林整備に、なる整備や森林整備に
	達成率 31,795ha 達成率 64 達成率 20 達成率	56 62%	37,774ha 58% 64 71%	60%	61%	64%	a ため治山事業による保安施設整備を実施した。厳しい予算事情の中で新たな災害発生箇所の復旧を優先するなど効果的に実施した。 211ha (44箇所) 目標達成にむけ計画的な治山事業を行うよう、予算配分について政府要望を引き続き行っていきたい。 台風による風倒木被害の対応に労力を取られたことが、面積が伸びなかった大きな要因の一つである。また、事業実施に当たり、境界確定等に	42,100ha	С	***		意見なし	などの気象災害がましていることから、本述のの気をとから、本述の間間は等の森林!の推進により多るとにの発揮を揮使能を開始に、ないない。 は、ないないないない。 は、ないないないないないないないないないない。 は、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない
「る人工林に対する整備割合(%) 3以上の森林の割合 の森林で高木の後継樹が消失、傾斜地で 0土壌浸食が発生する衰退度	達成率 64 達成率 20 達成率	62%	58%	60%	61%	64%	a ため治山事業による保安施設整備を実施した。厳しい予算事情の中で新たな災害発生箇所の復旧を優先するなど効果的に実施した。 211ha (44箇所) 目標達成にむけ計画的な治山事業を行うよう、予算配分について政府要望を引き続き行っていきたい。 台風による風倒木被害の対応に労力を取られたことが、面積が伸びなかった大きな要因の一つである。また、事業実施に当たり、境界確定等に		С	***		意見なし	などの気象災害がより していることから、より 層の間伐等の森林豊 の推進により多ると 能の発揮を機能を通じ 能に、発揮を基機能を に、をなめの治 を せるため森林整備に の整備や森林整備に
3以上の森林の割合 の森林で高木の後継樹が消失、傾斜地で)土壌浸食が発生する衰退度	達成率 20 達成率	62%	71%				台風による風倒木被害の対応に労力を取られたことが、面積が伸びな 3 かった大きな要因の一つである。また、事業実施に当たり、境界確定等に なくの労力、時間を買ってといる後も大地の集かれた。一層即1943との再	90		=	<i>T</i> =0		させるための治山旅 の整備や森林整備I
の森林で高木の後継樹が消失、傾斜地で)土壌浸食が発生する衰退度	達成率			-	19					=	/Lo		させるための治山施
を実践している市民団体等の数(団				_	10%	-	(この指標については前回調査から5年後を目途に調査します)	10	_				
を実践している市民団体等の数(団				•	·				•	•	•		
		163団体 111%						150団体		***	2項目を均等に 評価し★3つとし た。	·意見なし	
ホの数(箇所・累計)	0箇所	14箇所 35%						40箇所					_
を備する里山の箇所数(累計)	0箇所		169箇所 56%	200箇所 67%	222箇所 74%	230箇所	里山を保全活動フィールドとして活用するだけでなく、二ホンジカ等の獣 青 書被書経滅対策としての緩衝帯整備や防災機能向上のために整備に取 - り組む地域も増え、里山を管理する体制が広まっている。	300箇所	В				
リづくり月間の森林づくりへの参加者	1,583人 達成率	11,845人 91%	11,430人 88%	6,675人 51%	7,392人 57%	5,695人 44%	前年に比べ交流会参加者が増えたが、地域普啓発活動参加者が大きく 減少し、目標を大きく下回る結果となった。 交流会の課題としては、都市部からの集客に課題があり、月間の普及 啓発も含めてPRを拡大する必要がある。	13,000人	D				
	-1	1		ı						I	l		
在 景(m3)	32,000m3(H20)	56,000m3	54,000m3	76,000m3	88,000m3	76,000m3	素材生産量は、前年88千m3から12千m3減少し76千m3で、内訳は、製材用が増減無の23千m3、合板用が増減無の15千m3、木材チップ用が12千m3減の38千m3であった。需要状況や気象害等の影響により素材生産量が減少している。 3 今後も引き続き、幅広い利用や需要に応えていけるよう、目標達成に向けて、素材生産の一層の拡大に取り組む必要がある。	120,000m3		***	達成率63%のた	課題。 ・県と市町、森林関	上から川下までを通り 林業・木材産業の活 化を行う林業の成長 業化を図ること、また
<u></u> 또 보내 0 /	達成率	47%	45%	63%	73%	63%	*					保組織が一体と なって、県内で木材 を利用し、6次産業 化に取り組む必要	林や地域資源を活か た生業の創出や、関係 人口の増加、そのた後 の人材の育成を行うこ などにより、農山村の 性化に努める。
		<u>. </u>								1	1		
を推進する集落数(集落) 推進する集落」とは、集落ごとにぞれぞれ りについて話し合いの場が持たれ、共通 情が進められる集落のこと		89箇所	97箇所 97%	118箇所 118%	102箇所 102%		向き、情報提供や技術指導等意識の一層の高揚を目的として実施している。 る。積極的な地元への働きかけにより目標値以上の地域に意識啓発でき	100箇所	100箇所 A				
スト施業実施面積(ha) 施業」とは、高性能林業機械等を活用し、	80ha (H20)	530ha	590ha	664ha	638ha		により倒木被害等が多く発生したことで施業面積が伸びなかった。今後も 一低コスト施業を推進するための研修や普及指導など重点的に取り組む必	1,400ha	D	****	2項目を均等に 評価し★4つとし た。	・意見なし	_
: 作、 帯	進する集落」とは、集落ごとにぞれぞれ りについて話し合いの場が持たれ、共通 が進められる集落のこと に に に に に に に に に に に に に	を推進する集落数(集落) 達成率 を推進する集落数(集落) 連進する集落上は、集落ごとにぞれぞれ りについて話し合いの場が持たれ、共通 が進められる集落のこと に下施業実施面積(ha) を発」とは、高性能林業機械等を活用し、 を紹網の整備等、効率的な作業システムに	を推進する集落数(集落) 達成率 47% を推進する集落数(集落) 選成率 47% を推進する集落したは、集落ごとにぞれぞれりについて話し合いの場が持たれ、共通が進められる集落のこと 89% に下施業実施面積(ha) を楽」とは、高性能林業機械等を活用し、各網の整備等、効率的な作業システムに	全量(m3)		全量(m3)	を推進する集落数(集落) 25箇所 89箇所 97箇所 118箇所 102箇所 108箇所 102箇所 25箇所 89箇所 97% 118% 102% 108 25億元率 89% 97% 118% 102% 108 25億元。 80ha (H20) 530ha 590ha 664ha 638ha 687ha 684ha 638ha 687ha 687ha 684ha 638ha 687ha 684ha 684ha 688ha 687ha 688ha 688h	### 25 (m3) 32,000m3(H20) 56,000m3 54,000m3 76,000m3 88,000m3 76,000m3 88,000m3 76,000m3 88,000m3 76,000m3 76	業量(m3) 本科生産量は、前年88千m3から12千m3減少176千m3で、内部は、製材用が増減無の23千m3、合放用が増減無の13千m3、木材チップ用が12 干部減の38千m3であった。需要状況や気象音等の影響により素料生産量が減少している。 今後も51き続き、幅広い利用や需要に応えていけるよう。目標達成に向けて、未業音 会体も51き続き、幅広い利用や需要に応えていけるよう。目標達成に向けて、未料生産の一層の拡大に取り組む必要がある。 本科生産の一層の拡大に取り組む必要がある。	25箇所 89箇所 97箇所 118箇所 102箇所 25箇所 89箇所 97箇所 118箇所 102箇所 25億年の表落数(集落) 26人に表表を記される。本語を関係に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点に対して、表表を観点を表表を表える。 「100箇所 25 000 25		25 箇所 32,000m3(H20) 56,000m3 54,000m3 76,000m3 76,000m3 88,000m3 76,000m3 76,0	業績(m3) 本本本 25箇所 39箇所 97箇所 116箇所 102箇所 25箇所 39箇所 97箇所 116箇所 102箇所 25億年年日上、大きな発展とは、第8と目として実施して、東京では、100箇所 100箇所 100固所 100固所 100箇所 100箇所 100箇所 100箇所 100箇所 100固所 100固所 100固所 100箇所 100箇所 100固所 100固所

達成率の計算方法 ①実績が単年のもの: H30実績値/R2目標値 ②実績が累計のもの: (H30実績値ーH15現状値)/(R2目標値ーH15現状値)

個々の取組みの達成率の評価 A:90%以上 B:70-89% C:50-69% D:30-49% E:30%未満

琵琶湖森林づくり基本計画 進行管理および基本指標等達成度に対する点検・評価シート

Ⅱ:戦略プロジェクト【6年間の取り	組み】	H26(現状)	H27	H28	H29	H30	進捗状況	R2(目標)	達成率評価	達成評価	評価理由	審議会意見	対応方針
1 環境に配慮した森林づくり推進プロジェクト	1-1 除間伐等の森林施業を実施した森林の面積 ※除間伐を含む森林施業全体の面積	2,227ha	2,938ha	2,354ha	2,059ha	2,189	成熟期を迎える林分が増えていることから、近年、搬出間伐の割合が増加し、 ha 結果として間伐面積は減少することとなった。また事業実施に当たり、境界明確 化等に多くの労力・時間を要している。今後も除間伐とともに、林地の集約化に 一層取り組む必要がある。	3,100h	a B		評価し★3つとし た。	・境界の明確化が 進まないと間伐や 木材生産量が増え ない。目標年度向け	るところ。 ・今後もこの協議会を
		達成率	95%	76%	66%	7	71% また、平成30年度については、台風による風倒木被害が発生したことにより事業の遅滞がみられ実績が伸び悩んだ。 H27から、県・市町で構成する協議会を設置し、情報共有等を図るとともに、手						
	1-2 境界明確化に取り組んだ森林面積(累計)	1,023ha	1,436ha	1,745ha	2,060ha	2,477		7,000ha	a _				
		達成率	7%	12%	17%	% 24%	日 で現分が行足が成門によっての無になってこれが、日保屋はな起じが、 況である。今年度からは、市町と森林組合で構成する滋賀県森林整備協議会が 設立され市町が主体となった森林境界明確化を推進していく。県は、森林整備 協議会と一体となって森林境界明確化の推進を支援を行っていく。		E				
	1-3 ニホンジカの捕獲数	14,374頭	13,950頭	16,279頭	14,601頭	13,103	への経過道が被災するなどの影響により捕獲活動に影響が出ている。	19,000夏	Q	***			
		達成率	87%	102%	77%	6	9% (平成27,28年度の捕獲目標:16,000頭、平成29,30年度の捕獲目標:19,000頭)	項) (H32の目標 15,000頭)		き。	通じ、技術情報の積極 的な提供や作業の進 め方を助言することな		
	1-4 生物多様性に配慮した治山・林道工事の箇所数	46箇所	57箇所	60箇所	58箇所	61箇	線化資材の種子配合や現地伐倒材の使用などに対する理解が進み、発注工 事の9割において、生物多様性に配慮することができた。今後も、対象となる全て の工事でこうした取り組みができるよう工夫していきたい。	75箇月	f				どにより、さらなる境界 明確化の推進に努め ていく。
		達成率	76%	80%	77%	8	H29: 87%(58∕67) → H30 91%(61/67)						
	(R1追加) 1-5 新たな森林経営管理の仕組みに参画する市町数(累	0箇所 達成率	_	_	_	_	-	11市田					
森林・林業・山村づくりプロジェクト	高T)2−1 活動をPRする森林づくり団体数(累計)	68団体	76団体	80団体	81団体	83団	森づくり活動団体のネットワーク化と情報をHPで一元的に発信することにより、 体 活動の活性化を目指ざす。様々な機会を通じて登録を呼び掛けたが、新たな団	160団体	<u></u>				
		達成率	9%	13%	14%				E				
	2-2 琵琶湖森林づくリパートナー協定(企業の森)締結数 (累計)	23箇所	23箇所	23箇所	23箇所	24箇	平成30年度は1箇所の協定が締結できた。今後は、企業の要望に即した森林を掘り起こすとともに、企業へのPRを積極的に行う。	35箇月	Fr .	*	2項目を均等に 評価し、★1つと した。	: ・意見なし	
		達成率	O%	0%	0%		8%		E				_
	(R1追加) 2-3 全国植樹祭における苗木のホームステイ・スクール		_	_	_	139主	<u>_</u>	280主体	<u> </u>				
	ステイに参加する主体数(累計) (R1追加) 2-4 森林·林業·山村づくりモデル地域数(累計)	達成率	_	_	_		0%	- C44 =	5箇所				
		達成率				ļ <u>.</u>		3 面 万	" –				
3 森林資源の循環利用促進プロジェクト	3-1 びわ湖材を使用し整備した木造公共施設数	16施設	10施設	12施設	14施設	8施	た。今後更に市町ほか関係機関との情報共有や連携を図りながら、公共施設へ	20施記	g D				・木材需要量を増やし
		達成率	50%	60%	70%	4	0% のびわ湖材利用が促進されるよう普及啓発に取り組んでいく。	わ湖材利用が促進されるよう普及啓発に取り組んでいく。		・県内の木材需要	ていくためには、製材 所のほとんどが中小規 模である当県の特性を		
	3-2 びわ湖材認証を行った年間木材量	32,109m3 達成率	36,865m3 57%	46,244m3 71%			でわ湖材を取り扱う認定事業者は、平成30年度末時点で165者、認定した木材量は、55,020m3(対前年度39m3の増)となった。引き続き「びわ湖材」の普及と認証制度の理解を醸成できるよう取組を支援する。	65,000m	3		3項目を均等に 評価し、★4つと した。	が増えている美感が湧かない。数字が増えてる業種もあるが、一般の別ないを持たている。	生かした、付加価値の 高い製品づくりに向け た取組が必要と考えら れる。 ・木製品などを活用した 「木育」を進め、その価
	3-3 木材流通センターとりまとめによる原木取扱量	10,012m3	17,818m3	31,629m3	40,193m3		県内各森林組合および造林公社との連携をすすめ、B材を中心にC材の取り 扱いも増えたことにより、前年度より3,816m3の取扱量の増となった。今後も引き	40,000m	3				
		達成率	45%	79%	100%		続き、需要者ニーズに安定して応えていけるよう取扱量の増、需要の開拓などのMの取組を支援する。		A		るような政策に力	値や魅力を高めるとともに、CLTなどの新たな製品を活かした木材産	
	(R1追加) 3-4 県内の素材需要量	-	_	_	95,000m3			120,000m	-				業を振興することにより、木材需要の喚起に つなげていきたい。
4 次代の森林を支える人づくり推進 プロジェクト	3-4 宗内の系材需要里 4-1 認定森林施業プランナー数(累計)	達成率 ————————————————————————————————————	24名	26名	79% 27名		8% 森林施業プランナーの技術、知識の向上を支援しており、技量が一定水準に	, 30名 B					
		達成率	24石 57%	20石 71%			名 あることを示す資格取得の必要性の認識が高まり、平成27年度の大量合格後も 一着実に取得者数が増えつつある。平成30年度も1名が合格したが、目標達成に 6% 向け引き続き支援を行う。						
	4-2 自伐型林業育成研修の開催数	40	10回	7回	6回	9	自伐型林業を目指す県民、グループに対し、森林施業を始めとした指導、支援 を行っている。自伐型林業はある程度の組織基盤の前提上に活動が開始される 事例が多く、新規団体の発掘は難しい中、新たな支援事業も開始したが開催回 数が9回となった。新規団体の育成は厳しい状況であるが、引き続き支援や啓 発を行っていく。	15[15回	***	3項目を均等に 評価し、★3つと した。	: ・意見なし	
		達成率	67%	47%	40%				С				_
	4-3 乳幼児に向けた「木育」に取り組む市町の数	0市町	2市町	5市町	7市町	7市	関度材を使用する食器、玩具による木育の取組を支援する木育推進事業を、3市町(長浜市、湖南市、多賀町)で実施し、ウッドスタート宣言を行った民間企業が、4店舗(栗東市、東近江市、彦根市、長浜市)で木育コーナーを設置された。また、彦根市で木育インストラクターによる研修会が開催された。今後も県内における「木育」の幅広い取組につながるよう、セミナーやワークショップの開催等により、「木育」の普及啓発を進める。	19市田	T T				
		達成率	11%	26%	37%	3		1	D				

達成率の計算方法 ①実績が単年のもの: H30実績値/R2目標値

②実績が累計のもの: (H30実績値-H26現状値)/(R2目標値-H26現状値)

個々の取組みの達成率の評価 A:90%以上 B:70-89% C:50-69% D:30-49% E: 30%未満

基本施策・戦略プロジェクトの達成率の評価 ★★★★★:90%以上 ★★★★:70-89% ★★★:50-69% ★★: 30-49% ★:30%未満